

小児病棟における支援的デザインに関する研究 —患者とその家族、職員にもたらす心理的効果について—

正会員 ○古川 恵里 1*
同 加藤 彰一 2**

小児病棟 療養環境 環境行動
支援的デザイン ヒーリング 壁面装飾

Abstract

In this research, the focus is the healing environment and the behavior of the users who are children, their family and staff at the Children's Hospital. The environment for children should be improved from viewpoint of supportive design, in areas such as amenities, creativities and amusements. This study deals with the impacts of supportive interior design contributing to the environmental behavior in the Pediatrics Ward at the Mie University Hospital.

1. 背景

子どもの身体的・精神的成長は著しく、成長過程において様々な影響を受けやすい。特に療養中の子どもにとって病棟は恐怖心やストレスを抱えながら生活する空間となるため、物理的・心理的に子どもに適した環境とする事が望まれる。近年日本においても「子どもに優しい病院デザイン」を目指して、小児の療養環境を変える新しい潮流が見られる。それらは子どもを情緒的に支える支援的デザインとなりヒーリングの効果をもたらすと考える。開放的な療養環境の要素として色、光に加え開口部、仕上げによる支援的デザインの重要性に着目した。

2. 研究目的

- (1)小児の療養環境において、療養中の子ども・その家族・スタッフに対し、支援的デザインがどのような影響を与えるのかを明らかにする。
- (2)療養環境の改善に対して、インテリアにどのような支援的デザインの可能性があるのかを明らかにする。

3. 装飾実験・調査および方法

平成 18 年長谷川論²⁾にて、三重大学医学部附属病院小児病棟の処置室・廊下等に絵やモービルによる装飾実験が行われた。装飾後、処置室に装飾された太陽の絵により「太陽の部屋」と称するスタッフがいる事がわかり、処置室の怖い印象の軽減を図るスタッフの配慮による支援的デザインへ発展したと考える。本研究では、平成 20 年 12 月、三重大学医学部美術部の協力を得て、廊下及びトイレに装飾実験を行い、その前後の子ども・その家族・スタッフの行動や病棟への印象をアンケート調査し、装飾前後の印象変化を読み取る。また、支援的デザインが子どもたちに与える影響を考察し小児病棟におけるヒーリング効果をもたらすデザインの役割を明らかにする。

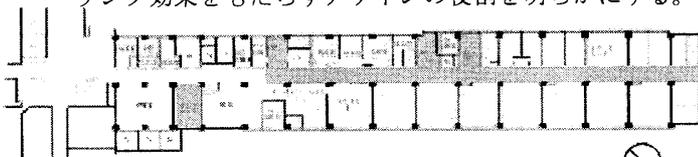


図1 三重大学医学部附属病院小児病棟 平面図 1:1000

4. 装飾実験・調査結果

アンケート調査の回収率は装飾前 37%、装飾後 39%で、そのうち装飾前後の病棟の様子を知っている子どもは7割だった。装飾前調査によりスタッフの約8割が「装飾による心理的影響がある」と回答した事から、病棟や入院生活に対する不安の軽減、処置のスムーズさにおいて支援的デザインの可能性を示唆していると考えられる。また、付添い者の回答にて、廊下の装飾への関心が高い事から、子どもとその家族にとって病棟は住まう空間として認識されており、子どもが安心して療養できるかが重要であり、病棟におけるヒーリングのあり方が問われている。

(1)廊下

□装飾前調査：長い廊下は直射日光が入らない事、照明が暗い事、壁紙が色褪せている事から「暗い病棟」という印象をもたせる。また前回の装飾が剥がれている箇所もある。ナースステーション前EVホールは人通りが多く滞留する空間だが、物置のように使用されている。小児の療養環境の改善すべき点として本研究では、照明器具の変更によるものではなく、明るく楽しい印象を目指し、カラフルな色彩を用いた支援的デザインを試みる。

□装飾実験：現在の壁面へデザインを装飾

童謡の歌詞をモチーフに、子ブタが様々な地域を旅する物語をデザインする。物語を用いる理由として①約 80 mある廊下にデザインに関連性・連続性をもたせる②キャラクターにより親しみやすさを図る③病室で過ごす事が多い子どもたちに外部を想像させる、である。入院中の子どもたちは0歳から高校生まで様々であるため、幅広い年齢層に受け入れやすいデザインを検討した。

図2 廊下①(海)



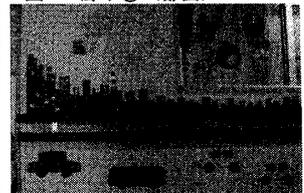
図3 廊下②(オアシス)



図4 廊下③(サバンナ)



図5 廊下④(都会)



□装飾後調査：印象変化の質問では、全回答者の9割が「よくなった」と答え、「明るい」「楽しい」という肯定的な印象を強める事ができた。物語性をもたせる事で様々な色彩・形によるデザインを可能としたが、前回の装飾跡や壁の暗い色により装飾が目立たないという意見を得た。付添い者・スタッフの6割が「移動の際、装飾が話題になる」と回答したが、「病室からでるきっかけになった」という回答は2割に留まった。このことから、廊下にて試みた支援的デザインは院内の明るい雰囲気づくりには影響を与えたが、装飾したデザイン自体が人の行為を変える事は難しいといえる。

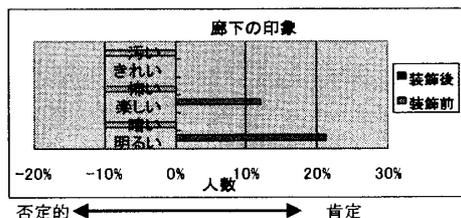


表1 子どもによる廊下の印象の変化

(2)トイレ

□装飾前調査：半年以内に壁面は塗り替えられているが、調査では「汚い」という印象が多く、壁面の塗り替えのみでは環境改善が完了したとはいえない。廊下同様、デザインの装飾により明るい印象をもたせる計画をする。

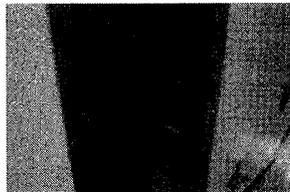
□装飾実験：半年以内に貼り替えられた壁面への装飾

トイレにも廊下のデザインを連続させる。デザイン選定時にその連続性を踏まえ、トイレが水場である事からテーマを水・海とし、海の生き物をデザインする。また、トイレの個室の扉だけでなく、個室にも装飾を行った。

図6 トイレ個室の扉



図7 トイレ個室内



□装飾後調査：印象変化の質問では、全回答者の8割が「よくなった」と回答し、肯定的な印象が増加した。子ども・付添い者から「夜のトイレが怖くなくなった」という意見を得られ、装飾により恐怖感を軽減させる事で支援的デザインの効果をみる事ができた。

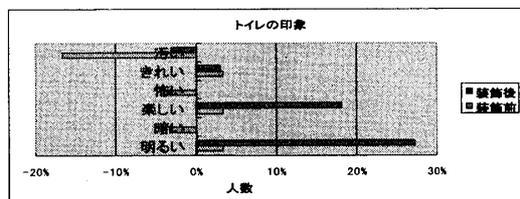


表2 子どもによるトイレの印象の変化

■支援的デザインによる効果

装飾後調査では、付添い者・スタッフの7割が装飾実験は「効果があった」と回答し、「明るい気分になって、少し前向きになれそう」という意見も得られた。装飾を「見る余裕がない」子どもや付添い者に対しては、院内を明るく楽しい空間と感じる事が癒しとなったとき、支援的デザインとしての役割を果たすと考える。

5. まとめ

装飾実験・調査によって壁面装飾は印象や行動に様々なヒーリング効果があり、支援的デザインに発展する事がわかった。まず、病棟という慣れない環境で過ごす不安感や入院生活において学校や友達からの疎外感によりストレスを感じる子どもは多く、病棟内を明るい印象にする事で元気づける効果がある。特に幼い子どもに対して、楽しい装飾により注意をひき、治療への恐怖心を減らし、処置をスムーズにする効果がある。また、装飾をきっかけに子ども同士、親子、子どもと医療者で会話をするなど、限られた環境の中でコミュニケーションのきっかけにもなり得る。最後に、装飾はその空間の印象をつけ、さらに部屋名を付けるほどの影響力をもつ。

今後の課題として、装飾後調査により「万人受けするデザインとはいえない」「廊下の天井にも装飾があるとよい」という意見があり、利用者である子どもや付添い者の参加のもとデザインや装飾箇所を検討し療養環境を図る事がさらなる支援的デザインに発展すると考えられる。次に、本研究では既存病棟での壁面装飾としてカッティングシートを使用した、その耐久性は低く、定期的な整備が必要となる。既存病棟に可能なインテリア装飾に限界はあるが環境変化は利用者へ刺激を与え効果的であるため、設計時に将来の環境改善を考慮する必要がある。

謝辞

本稿を作成するにあたり、装飾実験に多大な協力をしていただきました三重大学医学部附属病院小児病棟の方々に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) Anita Rui Olds: "Children Care Design Guide," McGraw-Hill
- 2) Bruce King Komisken: "DESIGN THE WORLD'S BEST: Children's Hospitals: the future of healing environments," The Images Publishing Group Pty Ltd
- 3) 鈴木賢一:「子どもたちの建築デザイン 学校・病院・まちづくり」社会法人 山漁村文化協会
- 4) Lindquist Ivonny, von Euler Minek, 訳野村みどり:「フレックサブル」
- 5) June Jolly, 訳鈴木敦子:「病める子どもの入院生活と看護」
- 6) 野村順一:「色の秘密」文春文庫
- 7) 加藤彰一:「病院の絵本が果たす案内支援システムとしての役割に関する研究-ヘルメック施設のウェイクアップインク」に関する研究-日本建築学会学術講演梗概集 E-1 pp.379-380 200307
- 8) 長谷川尚美:「小児病棟において装飾が与える影響に関する研究」三重大学 2006 年度卒業論文

*三重大学大学院工学研究所 博士前期課程

**三重大学大学院工学研究所 教授 工博

*Graduate student, Graduate School of Eng., Mie Univ.

**Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng.